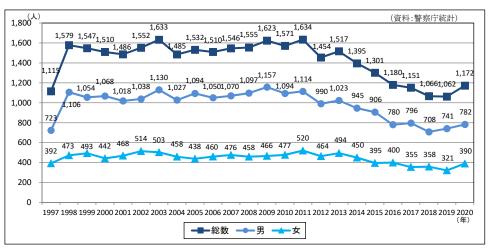
# 愛知県の自殺の状況

## 1 自殺者数の年次推移(愛知県・全国)

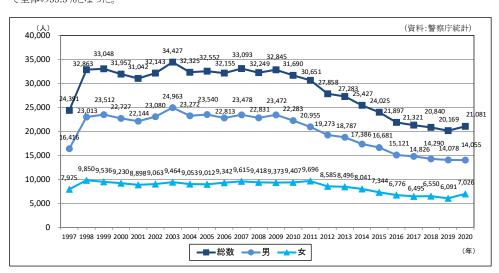
#### 【愛知県】

○愛知県の2020年(令和2年)の自殺者数は1,172人で前年(1,062)より110人(10.4%)増加し、7年ぶりの増加となった。 ○性別では男性が782人(前年比:+41人、5.5%増)、全体の66.7%、女性が390人(対前年比:+69人、21.5%増)で全体の33.3%となった。



### 【全国】

○全国の2020年(令和2年)の自殺者数は21,081人で前年(20,169人)より912人(4.5%)増加し、11年ぶりの増加となった。 ○性別では**男性が14,055人(前年比:△23人、0.2%減)**で全体の66.7%、**女性が7,026人(前年比:+935人、15.5%増)**で全体の33.3%となった。



資料 1

#### 自殺者数の年次推移(愛知県・全国)

	4		の概要資料		厚労省「人口動態統計」			
	自殺者数(人)		自殺死亡率 (人口10万対)		自殺者数(人)		自殺死亡率 (人口10万対)	
	県	全国	県	全国	県	全国	県	全国
1997年	1,115	24,391		\	1,060	23,494	15.5	18.8
1998年	1,579	32,863			1,451	31,755	21.1	25.4
1999年	1,547	33,048			1,474	31,413	21.4	25.0
2000年	1,510	31,957			1,444	30,251	20.8	24.1
2001年	1,486	31,042			1,418	29,375	20.3	23.3
2002年	1,552	32,143			1,432	29,949	20.5	23.8
2003年	1,633	34,427			1,566	32,109	22.3	25.5
2004年	1,485	32,325			1,432	30,247	20.3	24.0
2005年	1,532	32,552	\	\ \	1,466	30,553	20.6	24.2
2006年	1,510	32,155	20.7	25.2	1,445	29,921	20.4	23.7
2007年	1,546	33,093	21.0	25.9	1,415	30,827	19.7	24.4
2008年	1,555	32,249	21.0	25.3	1,441	30,229	20.0	24.0
2009年	1,623	32,845	21.9	25.8	1,512	30,707	20.9	24.4
2010年	1,571	31,690	21.2	24.9	1,434	29,554	19.8	23.4
2011年	1,634	30,651	22.0	24.0	1,481	28,896	20.4	22.9
2012年	1,454	27,858	19.6	21.8	1,332	26,433	18.3	21.0
2013年	1,517	27,283	20.4	21.4	1,389	26,063	19.1	20.7
2014年	1,395	25,427	18.7	20.0	1,290	24,417	17.7	19.5
2015年	1,301	24,025	17.5	18.9	1,172	23,152	16.0	18.5
2016年	1,180	21,897	15.7	17.3	1,055	21,017	14.4	16.8
2017年	1,151	21,321	15.3	16.8	1,054	20,465	14.4	16.4
2018年	1,066	20,840	14.1	16.5	1,004	20,031	13.7	16.1
2019年	1,062	20,169	14.1	16.0	1,024	19,425	14.0	15.7
2020年	1,172	21,081	<b>15.5</b>	16.7	*1,112	×20,222	*15.2	*16.4

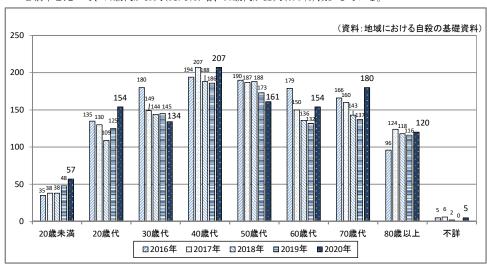
※厚労省「人口動態統計」の2020年は概数。なお2020年の自殺者数の確定値は県1,113人、全国20,243人。自殺死亡率は未公表(2021年9月末現在)。

#### ○人口動能統計と自殺の概要との違いについて

○八百動感他自己自校の人院安との注( 10 ) ( )								
区分	警察庁「自殺の概要資料」	厚生労働省「人口動態統計」						
対象	総人口(外国人を含む)	国内日本人のみ						
計上時点	自殺死体発見地ごと	自殺死亡者の住所地ごと						
計上方法	死体発見時に処理をした警察官が作成した自 殺統計原票を基に作成して計上している。	死体検案を実施した医師が作成の死亡診断書 若しくは死体検案書から調査票を作成して計上 している。						
発表	2009年(平成21年)1月より毎月公表	毎年6月に前年の概数を公表。確定数は9月公表						

## 2 2016年(平成28年)~2020年(令和2年) 年代別自殺者数(愛知県)

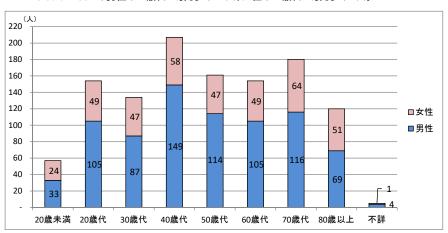
○2020年(令和2年)は、**40歳代(207人)が最も多く、次いで70歳代(180人)、50歳代(161人)**となっている。 ○前年と比べて、70歳代が43人(31.4%)増、50歳代が12人(6.9%)減少している。



# 3 2020年(令和2年)の自殺者数の性別・年代別内訳(愛知県)

資料:地域における自殺の基礎資料

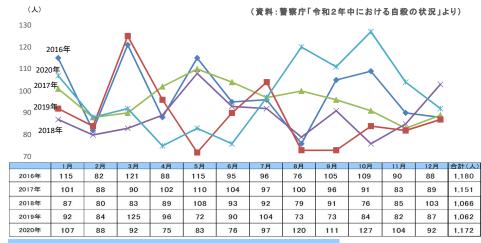
○2020年(令和2年)は、**男性は40歳代が最も多く149人、女性は70歳代が最も多く64人。** 



	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不詳	合計
男性	33	105	87	149	114	105	116	69	4	782
女性	24	49	47	58	47	49	64	51	1	390
合計	57	154	134	207	161	154	180	120	5	1,172

# 4 2016年(平成28年)~2020年(令和2年)の自殺者数の月別推移(愛知県)

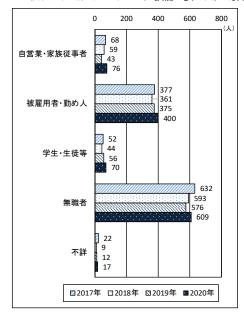
※2009年(平成21年)度より、警察庁では毎月自殺者数を公表している。

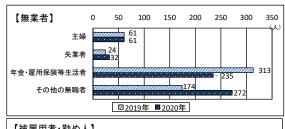


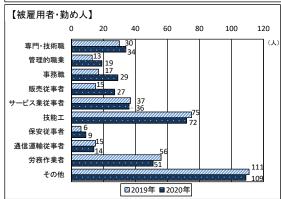
### 5 2020年(令和2年)の職業別自殺者数(愛知県)

資料:「警察庁自殺統計原票データを厚生労働省において特別集計」

- ○2020年(令和2年)は「無職者」(609人)が最も多く、次いで「被雇用者・動め人」(400人)、「目宮栗・家族従事者」(76人) となっている。
- ○無職者の中では、その他の無職者を除くと、「**年金・雇用保険等生活者」(235人)が最も多く**、次いで、「**主婦」(61人)、「失業者」(32人)**となっている。
- ○被雇用者・勤め人の中では、「技能工」(72人)が最も多く、次いで、「労務作業者」(51人)となっている。







## 6 2020年(令和2年)の原因・動機別自殺者数(愛知県)

資料:「警察庁自殺統計原票データ を厚生労働省において特別集計」

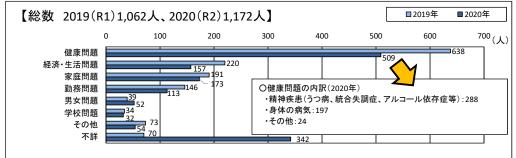
※ 2007年(平成19年)より、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を自殺者一人 につき 3つまで計上可能としたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者とは一致しない 場合あり。

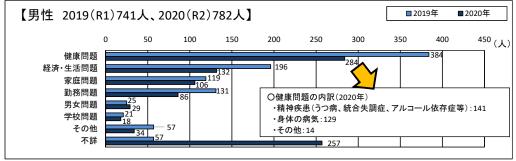
#### (1)原因・動機特定者数

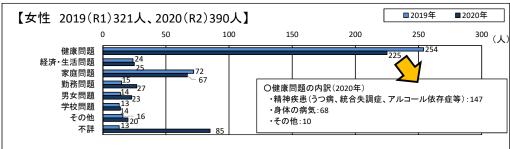
区分		原因•動機特定者	原因•動機不特定者	総数	
2018年	実数	922人	144人	1,066人	
	構成比	86.5%	13.5%	100.0%	
2019年	実数	992人	70人	1,062人	
2019#	構成比	93.4%	6.6%	100.0%	
2020年	実数	830人	342人	1,172人	
20204	構成比	70.8%	29.2%	100.0%	

#### (2)原因・動機別自殺者数(総数、男女別)

- ○原因動機別は、大きく7項目(家庭問題、健康問題、経済・生活問題、勤務問題、男女問題、学校問題、その 他) に**分類**されている。
- ○「健康問題」(509人)が最も多く挙げられ、次いで「家庭問題」(173人)、「経済・生活問題」(157人)となっている。 ○男女別に見ると、双方とも、最も多く挙げられているのが**「健康問題」**となっている。**男性**の場合は以下、**「経済・生** 活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」と続く。一方女性は、「家庭問題」、「勤務問題」、「経済・生活問題」と続く。 ○男女ともに「不詳」が増加している。



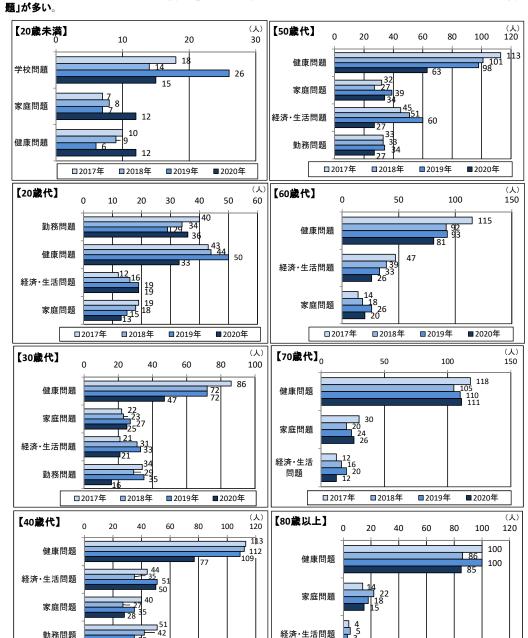




## 7 2020年(令和2年)の年代別自殺者数の原因・動機別内訳(愛知県)

資料:「警察庁自殺統計原票データを厚生労働省において特別集計」各年代における主な原因・動機を記載。

○2020年(令和2年)は**70歳代の「健康問題」(111人)が最も多く、**次いで**80歳以上(85人)、60歳代(81人)の「健康問** 題」が多い。



□2017年

■2018年

■2019年

■2020年

□2017年

■2018年

■2019年

■2020年

身体障害の

悩み

その他

合計

○各世代において特に顕著な動機となっている健康問題について、世代間・男女別でみると、年を経る毎に「病気の悩み(身体の病気)」の 占める割合が増加傾向にあるが、特に、「病気の悩み・影響(うつ病)」の占める割合は、20代から50代の世代に高く見られる。

